

## 年内の試験運用に向けた 羽田空港での大型自動運転バスの実証実験に協力

ソフトバンク株式会社の子会社である SB ドライブ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 兼 CEO：佐治 友基、以下「SB ドライブ」）は、全日本空輸株式会社（以下「ANA」）が東京国際空港（以下「羽田空港」）で 2020 年 1 月 22 日から 31 日まで実施する、大型自動運転バスの実証実験に遠隔監視などで協力します。

このたびの実証実験は、2020 年内に、一般のお客さまや空港職員のターミナル内の移動手段として自動運転バスの試験運用を開始することを目的としたものです。羽田空港第 2 ターミナルの制限区域内北側と南側をつなぐルートにおいて、中国 BYD 社の 57 人乗りの大型 EV バス「K9RA」をベースに先進モビリティ株式会社が改造した自動運転バスを使用して行われます。SB ドライブは、車内での転倒事故などを防止することを目的に、自動運転車両運行プラットフォーム「Dispatcher（ディスパッチャー）」とこの車両を連携させ、乗客の着座前発進や走行中の車内移動などを AI（人工知能）で検知して遠隔監視者や乗客に注意喚起を行う「Dispatcher」の機能を利用し、バスの遠隔監視を行います。また、遠隔監視者が「Dispatcher」で添乗員からの発車指示を確認して車両を発車させるため、発車指示を出す添乗員向けのスマートフォンアプリを用意して「Dispatcher」と連携させています。

SB ドライブと ANA は、2020 年以降の実用化を目指して、空港における自動運転バスの導入に向けた取り組みを 2018 年 2 月に開始し、同月に羽田空港新整備場地区で、また 2019 年 1 月に同制限区域内で実証実験を実施しました。このたびの実証実験では、2020 年内に開始する試験運用に向けて、自動運転技術および運用の最終確認を行います。

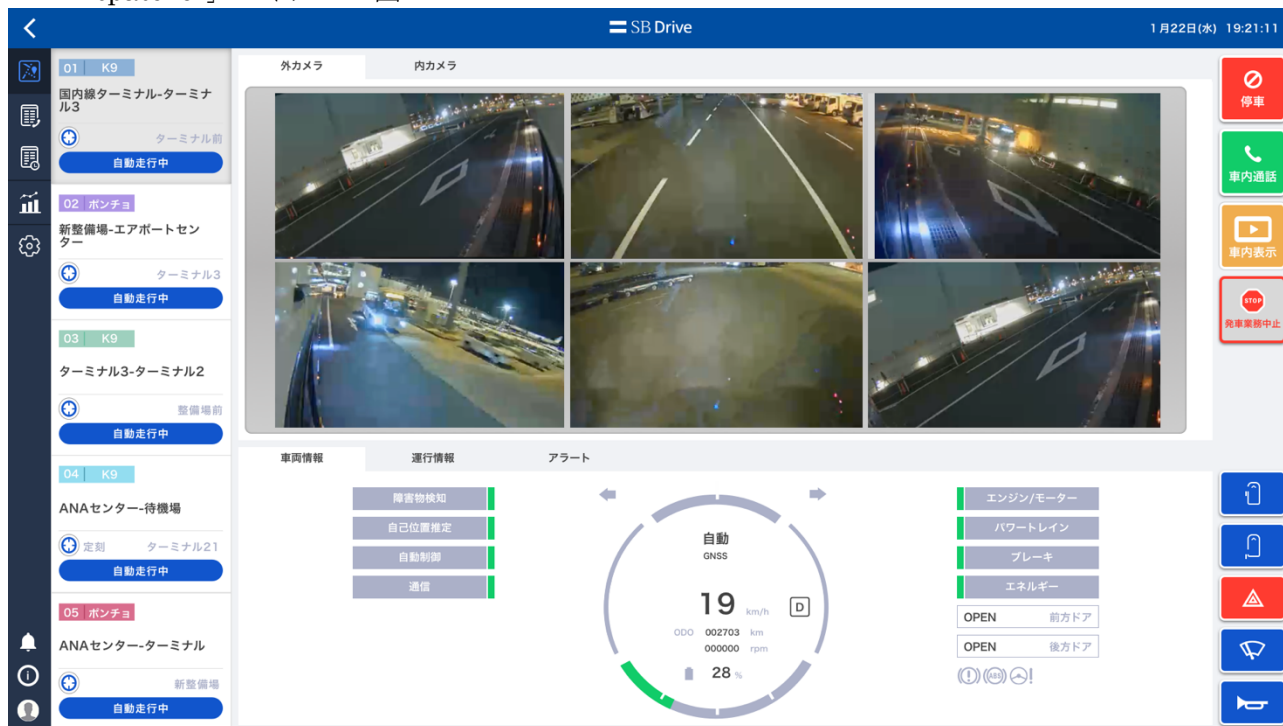
なお、現在「Dispatcher」は、このたびの実証実験で使用される車両を含めて 11 車種と連携しています。SB ドライブは、今後もさまざまな自動運転車両の運行管理・監視に「Dispatcher」を利用できるよう開発を進めていきます。

本実証実験の詳細は、ANA のプレスリリースをご確認ください。

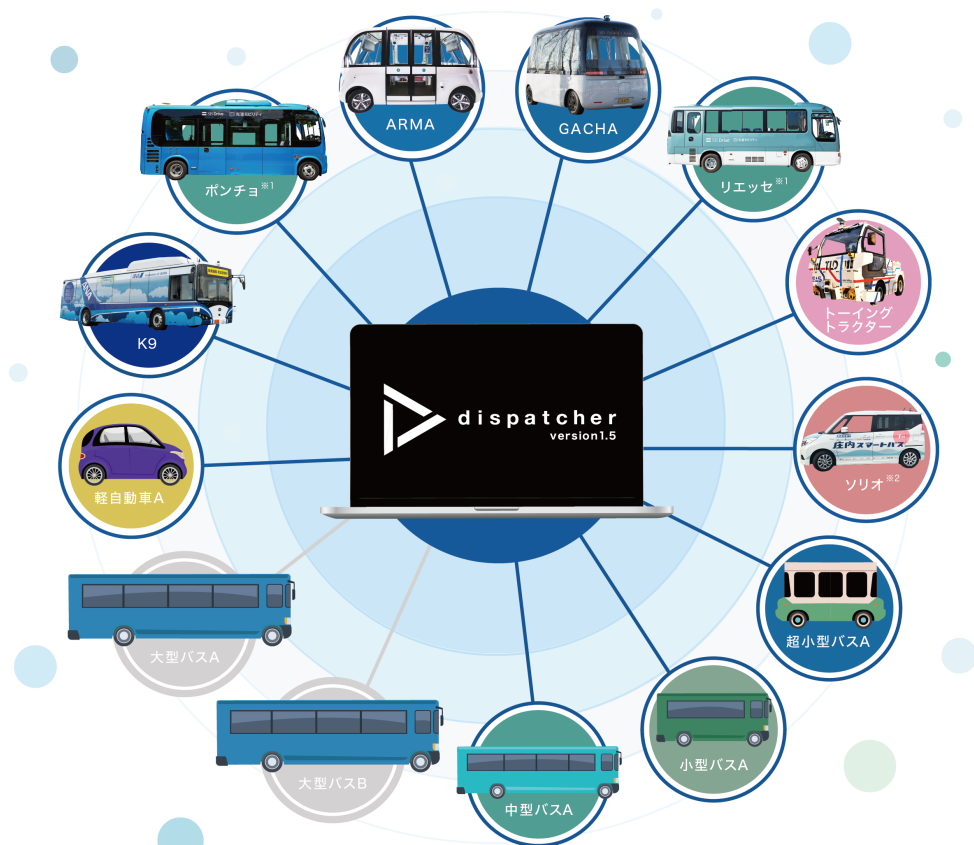
### ■ 「Dispatcher」と連携させた、「K9RA」をベースとした自動運転バス



## 「Dispatcher」のイメージ図



## 「Dispatcher」の連携車種イメージ図



※1 日野ボンチョと日野リエッセをベースに先進モビリティ株式会社が改造した自動運転バスが対象です。

※2 スズキ株式会社の先進安全技術を取り入れた車両が対象です。

- Dispatcher は、SBドライブ株式会社の商標です。
- このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。
- このプレスリリースに記載されている内容、製品・サービスの価格、仕様、問い合わせ先およびその他の情報は、発表日時点のものです。これらの情報は予告なしに変更される場合があります。